

第77回 卒業証書授与式

3月7日、多くのご来賓と保護者の皆様に見守られながら、第77回卒業証書授与式を挙行しました。数年ぶりに全校生徒参加で、保護者席を体育館2階にも設置しました。卒業証書授与、式辞、送辞、蛍の光、答辞、仰げば尊し、ハレルヤコーラス、校歌合唱。全ての内容に、生徒、先生、保護者、来賓、全ての人の思いがこもった感動的な式でした。

当日の「式辞」と「送辞」を紹介します。なお、「答辞」は、[附属中のInstagram](#)にアップしているので、動画をご覧ください。



令和6年度 第77回 卒業証書授与式 式辞 (一部略)

…略… 保護者の皆様、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。

「名前は、親が我が子に贈る最初の愛情」という名言があります。

先ほど、お子様はその大切な名前を呼ばれ、卒業証書を受け取りました。ご家族の深い愛情に包まれながら、長いようであっという間だった9年間の義務教育を終えたお子様の姿に、喜びと安堵の思いがこみ上げていらっしゃることでしょう。敬意を込めて心からのお祝いを申し上げます。あわせて、これまで本校の教育に寄せていただいたご理解とご支援に心から感謝申し上げます。

さて、卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。4月、皆さんが体育大会に向けて見せてくれた熱意とエネルギーは、私にとって大きな衝撃でした。リーダー会で理想の大会を作り上げようと奔走する姿や新種目「綱引き」を提案し、実現に向けて奮闘する姿には、感心を超えて深い感動すら覚えました。

…略…

中でも、私の心に強く残っているのは、合唱コンクールに向けた日々の練習です。ある日の昼休み、中庭で熱心に練習する皆さんを、1年生と共に見守っていた時のこと。尊敬と憧れの眼差しで皆さんを見つめる1年生の姿に、「伝統は、こうやって受け継がれていくんだな」と、胸が熱くなった瞬間でした。ひとつひとつの出来事が、私の心に鮮やかに刻まれています。皆さんの心にも、その足跡が深く残っていることでしょう。前向きに、そしてひたむきに努力を重ねた経験は、これからの人生において、皆さんの大きな糧になると信じています。

この1年間、附属中学校では、豊かな人生と社会を築くために必要な資質や能力を育むことを目標に、皆さんと共に歩んできました。私が皆さんに伝え続けてきた「主体性」「高い志」「他者意識」「気の利いた附中生」「感性」。これらは、皆さんがこれからの人生を豊かに歩いていくために欠かせない大切なものだと思っています。

では、豊かな人生とは、どのようなものでしょうか。物質的な豊かさや経済的な安定も大切な要素です。しかし、真の豊かさとは、きっと心の中に宿るものではないでしょうか。

自分が本当にやりたいことを見つけ、高い志を持ち挑戦し続けること。喜びや悲しみを分かち合える友人や家族の存在に感謝すること。周囲の人や社会に優しい眼差しを向け、支え合うことの喜びを感じる。そして、日常のなかにある小さな幸せを見つけられること。そうした瞬間の積み重ねこそが、豊かな人生を形作っていくのだと思います。

話変わりますが、私には3歳の孫娘がいます。彼女の最近のブームは、ディズニープリンセスとアンパンマンです。特に、アンパンマン。1973年の誕生以来、50年以上もの間、子どもたちの心を掴み続けてきました。なぜ、これほどまでに長く愛され続けるのでしょうか。

この春から放送されるNHK朝ドラのモデルとなる、アンパンマンの作者 やなせたかしさんは、豊かな人生について、こう語っています。

「人生最大の喜びは、人を喜ばせることです。実に単純なことです。この喜びほど人生を豊かにするものはありません。」

アンパンマンが子どもたちに愛され続ける理由は、彼が困っている人に手を差し伸べ、他人を助ける存在だからかもしれません。子どもたちは、小さいながらも、アンパンマンの行動が、「人を喜ばせることで、自分自身も喜びを感じる生き方」そのもの

のであることを、自然と感じ取っているのでしょう。

この話に通ずる、忘れられないニュースがあります。偶然目にした、空き缶分別で特許を取った小学校6年女子へのインタビュー映像です。

「おじいちゃんが、仕事で缶の分別に苦勞していたので、樂をしてもらいたくて、1年かけて作りました。特許も嬉しいけど、おじいちゃんが喜んでくれるのが1番嬉しいです。」

そう語る彼女の、はにかみながらも喜びに満ちた笑顔と、おじいさんの喜びの涙。その光景は、なぜか、今もなお心に残っています。

皆さんも、これまでに誰かのために行動したとき、心が満たされる喜びを感じたことがあるでしょう。この**喜びの循環こそが、よりよい社会につながっていくのだ**と思います。まさに、私たちのよりどころである、「**響きあいの精神**」そのものだともいえます。

「ともに過ごした日々が 未来を創る」

体育館の外に掲示された情報発信課のメッセージです。附属中で培った学びや、日々の努力、そして仲間とともに積み重ねたかけがえのない経験は、きっとこれからの旅路を力強く支えてくれるでしょう。

変化の激しい時代を生き抜くだけでなく、**自らがこれからの時代を作り上げていく、という高い志**を胸に、豊かな人生を築いていってください。

皆さんの母校附属中学校は、78回目の春を迎え、これからも皆さんを応援し続けます。皆さんが豊かな人生を送ることを心より祈りながら、式辞を結びます。

令和7年3月7日

熊本大学教育学部附属中学校長

令和6年度 第77回 卒業証書授与式 送辞

厳しい寒さも和らぎ、柔らかな日差しが降り注ぐ、この良き日に、熊本大学教育学部附属中学校を巣立って行かれる3年生の先輩方、ご卒業おめでとうございます。在校生一同、心よりお祝い申し上げます。

先輩方の卒業が近づくとつれ、これまでの様々な思い出を振り返り、寂しさがこみ上げて参ります。先輩方は、この1年間、附属中学校の最上位学年として、私たちに進むべき道を示してくださいました。そんな先輩方の姿はとても輝いていて私たちにとって憧れの姿でした。

新緑の眩しい5月、体育大会。初夏の暑さよりも熱い、先輩方の体育大会への情熱が、私達後輩の士気をより一層高めました。今年度、体育大会で行われた団対抗の綱引きでは、私達同様に、先輩方も初めての試みで見通しがなかなかたたない中でも、後輩を引っ張り、優しく、力強く支えてくださいました。

まだ、夏の暑さの名残を感じる10月、合唱コンクール。全クラスが優勝を目指し、朝・昼・夕と練習を重ねました。本番前のプレコンクールでは、先輩方の歌の完成度の高さに圧倒され、私達のやる気をさらにあげてくださいました。本番で先輩方が披露してくださった素晴らしい歌声は、私たち全員の心に深く刻まれています。あの時、県立劇場に響いた息の合った歌声からは、先輩方の絆の強さを感じました。音楽を通じて、互いに励まし合い、支え合いながら高め合っていく先輩方の姿は、まさに響き合いの精神を体現した物だと思いました。

合唱コンクールからその後にかけては、各課活動の課長や生徒会三役をはじめとしたリーダーの世代交代が本格的に始まった時期でもありました。私自身、三役での仕事は初めての経験で何もわからないことばかりでしたが、先輩方の手厚いサポートで、なんとかスムーズに活動することができました。

12月、厳しい寒さの中で行われた、駅伝大会。今年度は江津湖での開催で、全学年同時に走ることができました。忙しい受験勉強の中でも、先輩方は確実にたすきを繋いでいられました。3年間で積み上げられた、先輩方の強い絆を改めて感じることでできた行事だったと思っています。

私が今年1年の先輩方の姿の中で心に残ったのは、体育大会での応援団共演でした。手先の一つ一つの動きにも神経を使い、キレキレの演舞を披露してくださいました。4月になれば、2年生は最上位学年となります。先輩方が受け継いでくださった、これまでの伝統をこれからは、私達、在校生が受け継いでいきます。

最後に、卒業生の先輩方が歩む未来に幸多からんことをお祈り申し上げ、送辞とさせていただきます。

本日は本当におめでとうございます。

令和7年3月7日

令和6年度 在校生代表

